

栃の木からの手紙

2022年 師走 12月号



7日： 大雪

8日： 満月 旧 11月 15日

22日： 冬至

23日： 新月 旧 12月 1日

【 土作り 】

自然農法の畑では化学肥料や化学農薬を使用する事は出来ません。有機質の資材を使ったり、土壌中の微生物を豊かにして悪い菌などを抑える様に工夫しています。

ロシアのウクライナ進攻以来物価高騰が始まりその影響は農業資材にも及んでいます。化学肥料等の高騰に対しては政府の補助等が行われるようですが、これを機会に有機農業の拡大を図ってはいかががでしょうか？

今年の4月号でご紹介した「2050年カーボンニュートラル」の政府の提言を受けて農林水産省が打ち出した「みどりの食料システム戦略」の中には、

- ・化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- ・輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- ・耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）拡大

といった文言が謳われています

当農場では、数年前より植物質堆肥と動物質堆肥の二つを別々に調整して使用しています。植物質堆肥は、ビートの遊離土が主原料でアスパラ畑に散布します。

動物質堆肥は、牛糞堆肥が主原料で、一般畑の小麦後に散布しています。

自然農法畑では、えん麦の越冬栽培と米糠や醗酵鶏糞の散布を組合わせて土壌改良・土作りを行っています。

この秋、美幌センターの主、栃ノ木はさっぱりと丸坊主になりました。この時の落葉を皆さんが集めてゴミ袋に取って置いてくれました。ビートの出荷と共に戻ってき遊離土を堆肥場に積んでおくと1週間で醗酵菌が繁殖して湯気が立ち甘酸っぱい香りがしてきます。ここに落葉や廃棄の赤ビーツ等を混ぜて行きます。使用するのは、翌年の7月、アスパラの収穫が終わってからになります。